

[ 3 ] 研究開発単位Ⅲ「SOZAN 国際塾」

( 1 ) 1 年間の取組

月	主な取組み
4	新入生歓迎会でのプレゼンテーション, 岡山大学 SDGs アンバサダーへの登録, 第3回探究活動プレゼンテーションアワード
5	笹川平和財団スカラシップ説明会, Sacred Heart College オンライン交流会
6	JUEMUN 2022 Japan University English Model United Nations, グローバルスキルトレーニング
7	オープンスクールでのプレゼンテーション, グローバルスキルトレーニング, Sacred Heart College オンライン交流会,
8	子どもオンライン国際交流 (富川市), 高校生のための SDGs@HANDAI, グローバル合宿, イングリッシュ・オン・キャンパス (ノートルダム清心女子大学, 山陽学園大学, 岡山大学, 就実大学, 中国学園大学), スタンフォード MBA GMIX プログラム, Sacred Heart College オンライン交流会, 岡山大学留学生とのオンライン交流会
9	岡山大学留学生とのオンライン交流会
10	課題研究中間発表会, サステイナブルブランド国際会議 岡山ブロック大会, グローバルスキルトレーニング, 岡山大学留学生とのオンライン交流会
11	課題研究国際塾内発表会, グローバルスキルトレーニング, 岡山大学留学生とのオンライン交流会
12	高校生探究フォーラム, 全国高校生フォーラム, 超異分野学会香川フォーラム 2022, INTERKIDS ESD Café URA 2022, グローバルスキルトレーニング, 岡山大学留学生とのオンライン交流会
1	直島研修事前学習 I, 第4回探究活動プレゼンテーションアワード, グローバルスキルトレーニング, 岡山大学留学生とのオンライン交流会
2	未来航路課題研究発表会, Well-being フォーラム事前セミナー, 岡山城東高校課題研究発表会, 第7回サステイナブルブランド国際会議 2023 東京・丸の内, グローバルスキルトレーニング, 岡山大学留学生とのオンライン交流会
3	直島研修, Well-being フォーラム, SOZAN 国際塾2年生最終発表会

( 2 ) 取組実践

「持続可能な開発目標(SDGs)」における17の目標に基づいたテーマで課題研究を行った。意欲ある生徒を対象に、幅広く深い教養、課題発見・解決能力、新たな価値を創造する力、主体的に行動する力、他者と協働する力、自他を尊重する力の6つの資質と能力を身につけ、グローバル社会で活躍できる生徒を育成するために、なるべく多くのインプットやアウトプット、フィードバックの機会を生徒に与えるように様々な活動の機会の提供を図った。校内では課題研究の進め方に関する講座を複数回開催し、研究のプロセスやリサーチクエスションの設定の仕方、研究

計画書の作成の仕方、情報収集・分析の仕方、倫理的配慮に関する注意事項の確認など、課題研究を進めていく上で必要な知識・技能を習得する機会を設けた。また、未来航路（総合的な探究の時間）の時間を利用して研究の進捗状況を担当教諭に報告・フィードバックを受ける機会を設けた。ポスターや論文、プレゼンテーション資料等については、Classroomを通じて提出を求め、指導・助言・添削を行い、進捗状況をこまめに確認するように努めた。

今年度も新型コロナウイルスの影響を受け、これまではできていた活動がオンラインでの開催になったり、外部との直接的な折衝が制限されたりする中でも、Classroomを通じて積極的に情報発信を行い、活動を絶やさないように工夫した。大学や関係機関等が主催するイベント・プログラム・セミナー・発表会等に計24件、のべ130名以上の国際塾生が参加した。また、校内研修会の機会も大いに拡充させることに成功した。外国人教員によるグローバルスキルトレーニングを年間通じて10回程度実施し、英語運用能力のさらなる向上を図るとともに、外国語の文献を利用して調査・研究を行う方法、異文化間における情報の扱われ方、英語でのディスカッションの進め方など、国際社会で活躍していくためのスキルや知識を学ぶ機会を充実させた。また、オンラインを通じて本校の姉妹校である Sacred Heart College や、岡山大学の留学生との交流会を行い、国際交流の機会も絶やさないように努めた。これに加え、校内外での発表の場への参加も積極的に促し、課題研究の成果を外部に向けて発信することで、自身の探究活動が社会に貢献することにつながることを伝え続けた。他校の生徒や教職員、大学関係者や各種業界・企業で活躍しておられる方々からフィードバックをもらい、それらをもとに客観的に自身の課題研究を見直し、深化させるに至った。また、参加後には振り返りを書かせることで、自身の体験や学びを内在化し、整理した上で次に活かすことができるようにした。

## （２）－１ 校内での取り組み

### ・校内研修会の充実

今年度も昨年度に引き続き、課題研究を行っている2年生を中心に、課題研究の進め方に関してレクチャーを行う機会を総合的な探究の時間を利用して複数回にわたって設けた。2年生は1年次の段階で課題研究と調べ学習の違い、課題研究のプロセス、リサーチクエスチョン・仮説の立て方、研究計画書の作成の仕方、調査・分析方法に関する校内研修を受け、研究計画の作成を経て、探究活動の実践の段階にあった。2年生の課題研究の進捗状況に応じて、各グループが求める内容に対応させる形式で、グループごとに指導を行った。具体的には、面接法・質問紙法・実験法を用いた課題研究の進め方、外部機関や外部参加者への研究への協力を依頼する際の倫理的配慮事項について、データの分析方法、データの収集方法、分かりやすい発表資料（ポスター・プレゼンテーション）の作り方、論文の執筆の仕方などについて指導を行った。授業時間を活用した対面での指導に加え、オンラインでのこまめなフィードバックを行うことで、これまで以上に丁寧に課題研究の進捗状況を確認することが可能になった。

### ・オンラインを通じた国際交流の機会の拡充

今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受け、Sacred Heart College(SHC)との双方向の直接的な交流は叶わなかった。しかしChromebookを活用し、夏休み期間を利用して計3回にわたり、オンラインでの交流会を開催した。前半は互いの学校生活や個人にかかわること、文化などを話題に交流を重ね、後半は課題研究の内容について意見交換をする機会を設けた。また、SHCのみにとどまらず、岡山大学の留学生とのオンライン交流会も年間10回にわたり実施した。初回は留学生の出身国について学ぶ機会を設け、2回目以降は各グループが取り組んでいる課題研究の進捗状況を伝え、フィードバックをもらう機会を得た。自身のことや取り組みについて英語で説明する機会を通じ、英語運用能力の向上を図るとともに、グローバルな視点から課題研究に向き合う大変有意義な機会になった。

### ・グローバルスキルトレーニング(GST)の実施

今年度も昨年度に引き続き、6つの資質能力向上及び、英語力の向上のため、外国人教員によるグローバルスキルトレーニングを実施した。年間通じて10回の講座を開催し、各回において複数の国際塾生が参加した。本校のネイティブの英語教諭により、国際塾生の資質能力向上のため、毎回多岐にわたるトピックで講座が実施された。具体的な内容としては、グローバル人材やグローバルスキルとは何かを考えさせる講座、異文化について学ぶ講座、英語の文献の探し方、ICTを用いた課題研究の工夫を学ぶ講座などである(以下「令和4年度のグローバルスキルトレーニングの講座内容」を参照)。実施後に行ったアンケートの結果によると、「グローバルスキルトレーニングのおかげで、英語で幅広い知識を取得できた」、「グローバルスキルトレーニングで多くの国際課題について学びながらいくつかのツールを使いこなし、英語も練習することができた。この先にもこの講座で学んできたことが役に立つと思う」との声が複数の受講生から上がった。

<令和4年度のグローバルスキルトレーニングの講座内容>

実施回	日程	内容
1	6月20日(月)	自己紹介、「英語圏の様々な英語・アメリカ英語とイギリス英語の比較」をテーマにしたワークシート学習、ディスカッション
2	7月11日(月)	「在日本の外国人労働者の現状を把握しよう」 経済産業省のデータの分析、ビザについての英語の記事の読解、 ディスカッション
3	10月3日(月)	生活賃金に関するリーディング・Google Jamboardを用いたグラフの作成、内容理解確認
4	10月17日(月)	上記の続き
5	11月14日(月)	全国高校生フォーラムの発表者による発表リハーサル・質疑応答
6	12月17日(月)	「国際イベントにおいて日本人はどのような印象を外国人に残すのか～FIFAワールドカップの例をもとに～」をテーマにした 動画視聴・ディスカッション

7	1月22日(月)	Google Spreadsheet を活かした計算，データ分析を通して，アメリカ大統領選挙の仕組みを理解する活動
8	2月6日(月)	英語の研究資料の調べ方，英語での参考文献の書き方
9	2月10日(金)	Google Document のツールを用いた書式を整える活動
10	2月13日(月)	「リーダーシップとは何か」をテーマにしたディスカッション・グループでの協働のあり方，論理的な意見の述べ方

## (2) - 2 外部との連携

### ・外部発表会への参加

今年度も昨年度に引き続き，新型コロナウイルスの影響で様々な活動・発表の場が制限されたりオンラインでの開催に変更されたりする中でも，毎年参加している高校生国際フォーラムを始め，高校生探究フォーラム，全国高校生フォーラム，超異分野学会香川フォーラム 2022，第3回探究活動プレゼンテーションアワード，第4回探究活動プレゼンテーションアワード，岡山城東高校課題研究発表会，第7回サステイナブルブランド国際会議 2023 東京・丸の内，Well-being フォーラム等，多くの発表の場に恵まれ，課題研究の成果を外部に向けて発信することができた。発表の機会を通じて自身の課題研究を見直し，ブラッシュアップする機会になっただけでなく，他校の生徒からも大いに刺激を受け，考え方やものの見方を広げることができた。

### ○全国高校生フォーラム

1月18日(日)にオンライン形式で開催された全国高校生フォーラムに2年生3名が参加した。参加した生徒の発表テーマは、「Adjusting the Body Clock in Visually-Impaired Persons」であった。全盲者の体内時計の乱れを修正するための方法について文献調査，データ分析を中心に研究を行った。当日はプログラム前半に，各校の発表の概要を英語で説明し，それに対する大学教授からの講評・質疑応答が行われた。プログラム後半には関連分野ごとに分かれたグループで英語でのディスカッションを行った。生徒たちはこの日のために，何度も研究内容を精査し，修正と練習を重ね，入念に準備を行った。入賞こそは逃したものの，教授陣からは「高校生がこのような科学的でアカデミックな探究活動をしていることに驚かされた」と高い評価をいただいた。

### ○全国高校生フォーラム 発表要約

#### 日本語テーマ

全盲者の体内時計の乱れを修正する方法

#### 日本語要約

本研究では全盲者の体内時計の乱れを修正する方法の提案を目的とする。体内時計の乱れを修正するには，光を浴びることが良いとわかっている。そこで，食事と睡眠に焦点を当て，全盲者は光覚が失われていることから光で体内時計の同調が行われず，光の明るさを感じ取れないこ

とが体内時計の乱れの原因になっていると考察した。よって、全盲者は光を受け取る以外に食事と運動により体内時計を同調させることを提案する。

### 英語テーマ Title

Adjusting the Body Clock in Visually- Impaired Persons

### 英語予約 Outline

The purpose of our study is to propose a method to correct disturbances to the body clock of totally blind persons. Exposure to light has been found to be a good way to correct these disturbances. Therefore, we focused on eating and sleeping, and because totally blind persons have lost their sense of light, their internal clocks are not synchronized with light, and we consider the inability to perceive the brightness of light to cause their internal clocks to be disturbed. Therefore, in addition to receiving light, we propose totally blind persons synchronize their internal clocks through diet and exercise.



<参加した生徒の感想（抜粋）>

・全国高校生フォーラムにて、全盲による体内時計の乱れを修正する方法についての研究を英語でプレゼンテーションした。全国の高校生が集うこのフォーラムで、ハイレベルなプレゼンテーションやディスカッションを実際に体験して刺激をもらいたいと思い、参加することを決めた。準備段階では質疑応答の練習に特に時間をかけた。国際塾の活動の一環である、**Global Skill Training** や岡山大学の留学生とのディスカッション、先生やチームのメンバーとのディスカッションで練習を重ねた。その中で多角的な視点を得ることができ、研究内容をさらに深められた。また全国の高校生の研究発表を見て、何かを行動に移すことは自分の考えを持つことから始まるのだと気付かされた。私達のディスカッションチームでは、格差をなくすことについて話し合った。国籍、性別、障害といった様々な格差がある社会で、必ずしも全員がその課題の改善に意識を向けているわけではない。しかし、同じ高校生がそのような社会問題に関心を向け発言している姿を見て、今の社会問題はこれからの社会を担う私達自身の問題でもあると再認識した。日常に溢れている情報を聞くだけでなく、なぜその問題が起こるのか、どうして改善が難しいのか、考えることが将来社会に貢献して働くために必要だと思った。また英語の力は、それを実行するためのひとつの道具に過ぎず、英語学習の本質は、自分の考えを主張し行動に移すための手段を増やすことにあるのだろうと思った。全国高校生フォーラムに参加し、プレゼンテーションのスキルだけではなく、社会問題に対する姿勢について改めて考えさせられた。今回の研究の経験を活かし、これからも主体的に社会問題と向き合っていこうと思った。

・今回のイベントに参加して英語でプレゼンする力と良いプレゼン資料の作り方を学んだ。私は初めて英語でプレゼンテーションを作った。はじめはスライドを作るときにたくさんの文字を書いてしまって読みにくく、担当がページによって違うので語彙が統一されていなくて不完全なスライドだった。原稿も作ったが、難しい単語を用いていたため、発表するときに覚えることが難しく苦戦した。しかし、先生の添削により、どこを直せばより良いプレゼンになるのかを教えていただいた。そして、撮影当日はきちんと覚えたい内容を強調して言ったり、抑揚をつけて聞いている人に興味を持ってもらえるようにした。放課後も練習を積み重ねた成果が発揮できてとてもよかったと思う。今後はプレゼンテーションの際に培った力を発揮していきたい。

・今回の全国高校生フォーラムに出場する準備段階では、自分の発表への質疑応答ができるように考えて練習した。リハーサルでは準備していたところ、そうでなかったところでも質問が出たが、今までの発表内容も参考にして言えるようになっていたと思う。このイベントを通して、もう少し自分も積極的にこのような場所に関わっていきたいと考えた。十分な英語力を身につけ、自信を持って話せるようにしなければということも考えた。今後は発表内容、発表方法や何よりも今研究していることへの知識をつけ、残り少ない期間だが、様々な経験を積みたい。